2009 年 11 月 11 日

平成 21 年度

富士市学校給食地場産品導入協議会　参加報告

参加者：富士市学校給食を考える会メンバー・・・・・小櫛・保科
学校教育課・・・・・・・・・・・・・・・・・　２名
栄養士・調理員・・・・・・・・・・・・・・・１４名
富士市農政課・商業労政課・保健医療課・・・各１名
富士農林事務所・・・・・・・・・・・・・・・・2 名
富士市農協営農課・・・・・・・・・・・・・・・1 名
仲卸業・小売業・・・・・・・・・・・・・・・・3 名
富士中央青果・・・・・・・・・・・・・・・・・3 名

視察の内容

１．三浦光義さん圃場（富士市水戸島）
主要作物：きゅうり・梨・春きゃべつ・米

＊ハウスのきゅうり作り

・10 月上旬に苗を植え、11 月下旬～5 月まで出荷
・台木（カボチャにきゅうりを接ぐ）の苗を購入
➠➠➠昔は、自分で接いだが、今は専門に作っているところから購入
・きゅうり作りは、大学卒業後、近所にきゅうり作りの先生の指導をうけながら続け、33 年目。
・1000 本の苗を育て、1 日 1 本の木から 1 本のきゅうりを収穫することをめざしている（一般には 1 本の木から 20 本位の収穫）。
・きゅうりは 5 月頃の陽気が、気温・日照ともに一番適している。
・きゅうりは、授粉させない。その方がまっすぐスマートにできる。だから、ハウスにハチなどの虫が入ると困る。
・冬は、外気温との調節、昼夜の温度差の調節のため、必要に応じて暖房をする。

（感想）

1000 本の苗木が、1 本 1 本、つるや葉や花がどういう形になっていくかを、1 週間後、1 ヶ月後、そして収穫終了時期までイメージして、形を整えていくそうです。植物が実をつけるのは、子孫を残すためです。最優先で花や実をつけようとするので、人間がバランスよく育てることで、半年間、平均的に収穫できるそうです。まさに職人技です。

土づくりのため、収穫後の半年間は、稲を植え青田刈りして土に入れ込む。イネ科の植物は、土の余分な肥料を吸収するそうです。土づくりを大切にしていることを感じました。

最後に農薬についての質問に、「農薬ゼロは無理ですが、お酒やお酢を使ったり、法律の範囲内で、できるだけ低農薬にしています。自分が食べられるものを作っています」という言葉が、印象的でした。

２．渡辺雅之さんの圃場（富士宮市村山）
主要作物：小松菜・山東菜・おたま菜・大根葉

＊大型ハウスでのおたま菜栽培

・富士市の公設市場への葉物出荷量は、個人では最大
・一年中、同じ様な量を出荷できるように栽培
・ゲリラ豪雨や天候不順のリスクを考え、一部大型ハウスに切り替えた。
・大型ハウスは、屋根が開閉でき風通しを良くしたり、遮光や保温のための仕掛けがあり、また雨の時には自動的に閉まるようになっているので、暖房などはしない。
・収穫と出荷は、パートの人手が必要だが、種まきや水やりは、オーナーが、体で感じた経験に基づいて行う。
・牛フンの堆肥を中心にして、化学肥料はなるべく使わない。葉物は追肥の必要　がほとんどない。農薬も夏場以外はほとんどしない。
・圃場の周辺の草取りなど、整備する。
・夏場に、機械でかき回して水をたっぷりやって少し畑を休ませる。

（感想）

前回も感じたことですが、広い敷地（住まいと圃場）が、とてもきれいに整っていて、美しいことに感動しました。「作物をつくるのに、機械の力を借りているが、機械任せにはしない。毎日、必ず朝晩、見回って歩きます」という言葉に、生き物と向き合う姿勢を感じました。

３．金森秀吉さんの圃場（富士宮市村山）
主要作物：葉ねぎ・ほうれん草

露地栽培の葉ねぎ

・葉ねぎは周年栽培。ほうれん草は 11 月から翌年 6 月まで。

・10 月いっぱいまでは、法律の範囲で必要最低限の殺虫剤を使う。

➠➠➠ネギの表面を食べる虫がいて、ネギはその傷を修復するため白い斑点になる。食べても支障はないが、見た目が悪いので出荷できない。

・11 月～3 月は、作物自体が健康なら、ほとんど農薬の必要はない。

・堆肥は、牛フンだけだと窒素が不足してくるので、サトウキビ（イネ科）を栽培して、土に入れ込む。

➠➠➠科の違う作物は土壌より吸収する養分の種類がちがうので、サトウキビを栽培することにより、土壌のバランスが良くなり、土壌中の病原菌を減らすことができる。

➠➠➠肥料は多すぎても根がやけてしまう。定期的に土壌分析を行って、土壌のバランスを図っている。

・良い土壌というのは、PH が 6 ～6.5 で、土の粒子も大きい粒と小さい粒が入り混じる（団粒構造　反対　単粒構造）ことによって、土と水と空気がほどよく混じり、フカフカしている。

・堆肥が土の中のバクテリアによって分解され、ゆっくりと有機質から無機質にかわっていくので、作物はゆっくりと健康に育つ。
作物が健康に育てば、病気になりにくいので、農薬にあまり頼らなくて済む。

・従業員 3 人いて、おもに収穫と出荷にかかわる。

（感想）

全体を通じて、土づくりを大切にしていること、農業技術の技の素晴らしさに感動しました。また、農業から子育てのヒントになる学びもたくさんありました。

家庭菜園や子ども達の農業体験とは別の、農業の専門家としての技があることを少し理解でき、その中で、自然の仕組みやその作物に合わせて作っていく農業の大変さと素晴らしさも感じました。